

—平成 30 年西日本豪雨による被災絵画の修復報告—

◎尾形 純・山野 順生（トウキョウコンサベーション 株式会社ディヴオート 修復室）

1. はじめに

平成 30 年 7 月、西日本に停滞した梅雨前線に台風 7 号が流れ込み、7 月 5 日から 8 日にかけて西日本の広い範囲に渡り線状降水帯が発生し記録的な集中豪雨となった。西予市においては河川の氾濫により広範囲の被害を受けた野村町野村地区をはじめ、土砂災害や浸水被害により市内各地において同時多発的に被害が発生した。この災害により 6 名の尊い命が失われ、多くの方が家屋の倒壊や浸水等によって財産を失った。肱川流域では氾濫による浸水被害が発生し野村町阿下のすでに廃校となり市の所蔵品、文書などを保管する場所としていた旧大和田小学校も浸水、保管された多くの市公文書とともに宇和町ゆかりの画家（阿形稔氏）より寄贈された油彩画ほか書画等も多大な被害を受けた。今回の発表では、豪雨災害によって著しく損傷した西予市所蔵の絵画や書などの損傷状況と、それらの冠水害特有の作品の状態と、それに対応して処置を行った修復の事例報告とともに、豪雨災害特有の被害による作品の状態を検証し処置の対応を考察する。

2. 被災した美術品等の状況

平成 30 年秋に愛媛県西予市の依頼で災害の状況を調査し、その後、作品の状況と状態等の報告も兼ねた発表として、当該被災絵画の修復に先立った形で愛媛県博物館協会研修会において被災絵画の初期対応に関する公演（事故被災時への提言「絵画の組成構造から修復における初期対応の考察」）をおこなった。講演では水害が起因して発生する 2 次的被害、主にカビ害などに対応する処置について考察した。災害時の西予市では、上流の西予市野村町の付近では家屋の 2 階に届くほどの水量となり浸水が発生した。市では廃校になった旧大和田小学校内に美術品や公文書を保管しており、学校が肱川に隣接することから大きな被災を受けるに至った。浸水により 2 階につながる階段の踊り場まで届く水量になり、学校の 1 階に保管されていた文書や美術品は泥流により汚損する事態となった。市では文書等を体育館に移動しダンボールを当てるなどの応急処置を始めていた。水が引いた後、そのまま学校内に保管されていた油彩画、日本画、書などには、泥汚れとともに間も無く著しいカビが発生した。特に日本画においては画面の顔料が流れ、緩衝材が張り付いた著しい損傷の状態であった。また書においては黒カビの発生もひどく、文字が見えないほどにカビに覆われていた。そして油彩画に関してはアクリルガラス等のない額縁に収められていたが、作品全てを覆う泥とともに著しいカビが発生していた。しかし額に入っていたことで突傷や変形などを防ぐことができた。今回の状況を鑑み、市の担当者話し合い、全ての作品を修復することは困難という結論に至り、阿形稔作「母の像 I」「母の像 II」F100 号 2 点を修復することとなった。

3. 被災絵画の組成と状態

3-a 阿形稔「母の像 I」「母の像 II」作品の組成

作品は小学校から高校までを宇和町で過ごし東京藝術大学在学中に制作した阿形稔氏による作品で、制作後半世紀以上が経過した作品である。母親を題材にした連作であり、2 点ともにガラス無しに額装され、両作品とも概ね同様の技法、組成で描かれており油彩絵具でキャンバスに描いた作品である。キャンバスは自家製のもので 4 枚ほどの布地を糸で縫い継ぎ合わせた支持体を用いている。現状はオリジナルの状態ではなく、キャンバスは木枠から外され、布の張り込まれた木製パネルにステーブルにより張り込まれた状態であった。ステーブルの状態を観ると、経年により脆化し酸化による錆びつきも酷く、張り込まれてからかなりの年数が経過していることがわかる。作品は描かれた後、経年により劣化の症状が現れ、それとともに現在のパネルに移しかえられ現在に至ったと観られる。

3-b 阿形稔「母の像 I」「母の像 II」被災した絵画の状態

作品は、額に入っていたことで作品へ衝撃が緩和されたとみられる。冠水による泥水に数日浸かるといふ被害を受け、画面には泥水が引くに従って汚れが段階的に残存する様子が残されている。また被災前にすでに絵具の固着も弱まり、画面の広い範囲にわたって浮きあがりや亀裂が発生している状態で、今回の被災事故に見舞われ、浸水した画面は絵具をさらに浮き上がらせ、症状を悪化させた。加えてカビの発生と泥の付着により画面に描かれた人物が見えなくなるほどの状況となった。また布の張られたパネルにオリジナル作品が張られた重層的な構造が湿気を逃しにくい組成となりカビは画面のみならずパネル内部にもひどく発生していた。水害は浸水による作品の材質への影響に加え、組成や経年による状態の程度により被害を深刻にしてしまう。

4.被災した絵画の修復計画(2つの作品の共通する作業を以下に記した)

修復は工房に搬入する前に燻蒸処置をおこなってからの修復作業とした。泥や汚水によって作品の汚れが著しい事から修復は二段階に分けた。

◎第一段階として

A. 大まかな泥汚れの除去洗浄 B. 表打ちなどによる画面の養生。修復をする段階ではすでに画面は完全に乾燥し泥は固く固着していることから段階的に泥を緩ませながら取り除く計画を立てた。

◎第二段階として

本格的で詳細な修復処置をおこなう。

A. 画面洗浄。B. オリジナルカンバスを木枠から外してパネルに留める。C. ウサギ膠による剥落止めと亀裂のぼし。D. 麻布の繋ぎ目の余った布を除去する。E. 布の継ぎ目に Beva371 シートを接着剤とし和紙を貼って補強した。F. Beva371 シートを用いた作品前面の裏打ちをおこなった。G. 新調した木枠に張り込んだ。H. 欠損箇所へ充填、充填箇所等に補彩をおこなった。I. ワニスを塗布した。まず行った洗浄ではカビの除去に加え亀裂箇所などから入り込んだ泥の除去を試みたが容易ではなく、今回は有機溶剤また洗浄用の界面活性剤をはじめとする薬剤は用いず、弱めと考えられる洗浄液、主に水を用いて固まった泥を柔らかくしながら洗浄を数回にわたっておこなった。前述のように経年により材質が劣化し、損傷して浸水を受けた絵具層は固着が著しく弱まっている。すでに脆化した麻布も泥水の浸水により歪みや損傷も激しく裏打ちによる支持体の補強は不可欠であると判断した。しかし作品の支持体は4つの布から繋ぎ合わされており、カンバスには布の継ぎ目があり、裏打ちに必要な平面が得られず、裏打ち布を均一に接着することができないことから、縫合部分の余った布地を切除して平らにした上に継ぎ目の補強として、Beva371 シートを接着剤とし、細長く加工した和紙を用いて裏打ち前の継ぎ目箇所の養生、補強とした。その後と同じく Beva371 シートを用いて作品の全面に裏打ちをして支持体の補強とした。裏打ち後には新しく新調した木枠に張り込んだ。オリジナル作品は木枠に張られており、裏打ちによって十分に補強された作品は、以前のように湿気のこもりやすいパネルより木枠に張り直すことが適切であると判断した。画面の欠損箇所へ充填、補彩をおこなった。最終的に泥水の汚損によって乱れた画面の色調、色価の調整や画面の保護を目的として、合成樹脂(ケトン樹脂)によるワニスを塗布した。

5. まとめ

今般の川の氾濫による汚損状況から発生するカビの害を考えると、救出後、より早く乾燥させることを被災現場では提案するべきである。しかし完全に乾燥した泥は画面への固着もより強固となる。応急処置の段階でこれらの事柄を考慮するべきである。書籍等の記録媒体とは異なる様々な材質で構成される美術品は、カビの被害は致命的となり修復の処置も困難になることが多い。災害が発生した際の当初の判断や処置が作品の命運を分けることになる。加えて適切な作品の額装、マウントは作品の損傷を和らげ、支持体の変形を緩和するなどの症状の軽減にも役目も果たす。今回の2点の油彩画の修復では、すでに劣化し様々な症状が現れていた作品が被災したことで被害を助長し重症化を招く

ことになった。作品を保管する施設では、常に保管作品の材料、材質と技法、またコンディションを把握し、適切な額装と保管用の箱なども有効に利用しながら保存することが緊急時に適切な対応を問う手がかりになると言えるのではないか。

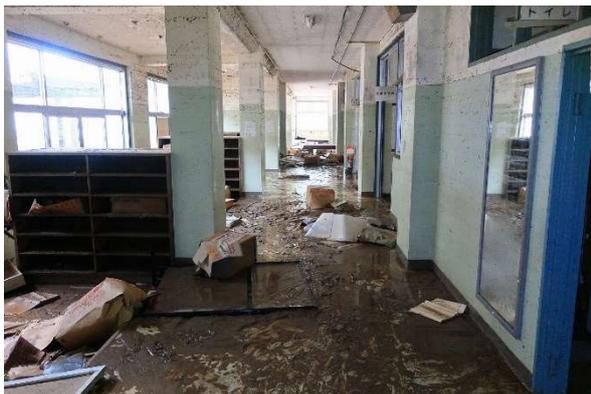
◎以下写真資料



1.西予市内の施設乙亥会館は2階まで洪水が迫る



2.旧大和田小学校2階への踊り場まで浸水した痕跡



3.水の引いた小学校1階



4.救出後に黒カビ害に傷む書



5.1階に保護されていた美術品等



6.阿形稔「母の像」修復前全図(以下修復工程は「母の像」)



7.損傷した額縁裏面



8.カンバスの張られていた養生用に布の張り込まれたパネル



9.画面左下方:泥の付着とカビの発生



10.画面右下方



11.画面上方:亀裂、浮き上がりとカビの発生



12.画面左継ぎ合わされているキャンバス



13.継ぎ目の布を除去



14.布の除去後の継ぎ目を和紙により補強



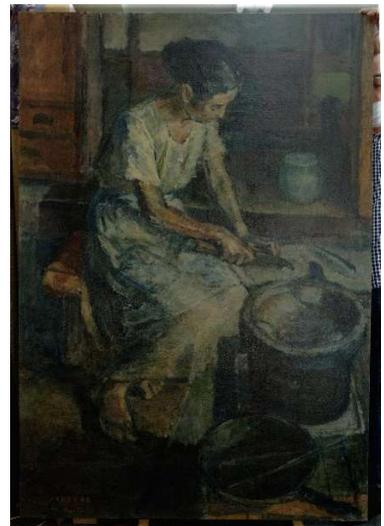
15.キャンバスの張り込まれた布付きパネルにはカビが発生



16.和紙補強後裏面パネルにはカビが発生



17.ホットテーブルによる裏打ち作業



18.修復後全図

写真資料：1～4 は西予市役所、西予市教育委員会の高木邦宏氏よりご提供頂いた。参考資料：「平成30年7月豪雨における西予市災害対応に関する検討報告書～市の災害対応の記録及び今後の防災対策のあり方と改善の方向」令和元年11月西予市災害対策本部運用改善検討会